

『アセスメント①』

おさらい（復習）

複合した認知機能障害の 総称である

認知症というのは

認知機能の障害があることによって

認知機能の障害が複雑に絡み合い
生活がうまい具合にいかなくなってゆきます

その人間の持つ
認知機能の障害をケアする
ということは

生活をベースに
どの機能等が複雑に絡み合っ
てうかかないのかを気にかけながら
見極め・支援してゆくことである

認知機能の繋がりと継続を通して
身体と心と感情を癒してゆく

認知機能の障害により起きる状態が主体的に緩和されてゆく

『アセスメントについて』

人間の身体は 身体・精神体・感情体 この3つで成り立っている

私たちは
身体（肉体）・精神体（心）・感情体（本能・感性）
のバランスを保ちながら生きている存在です

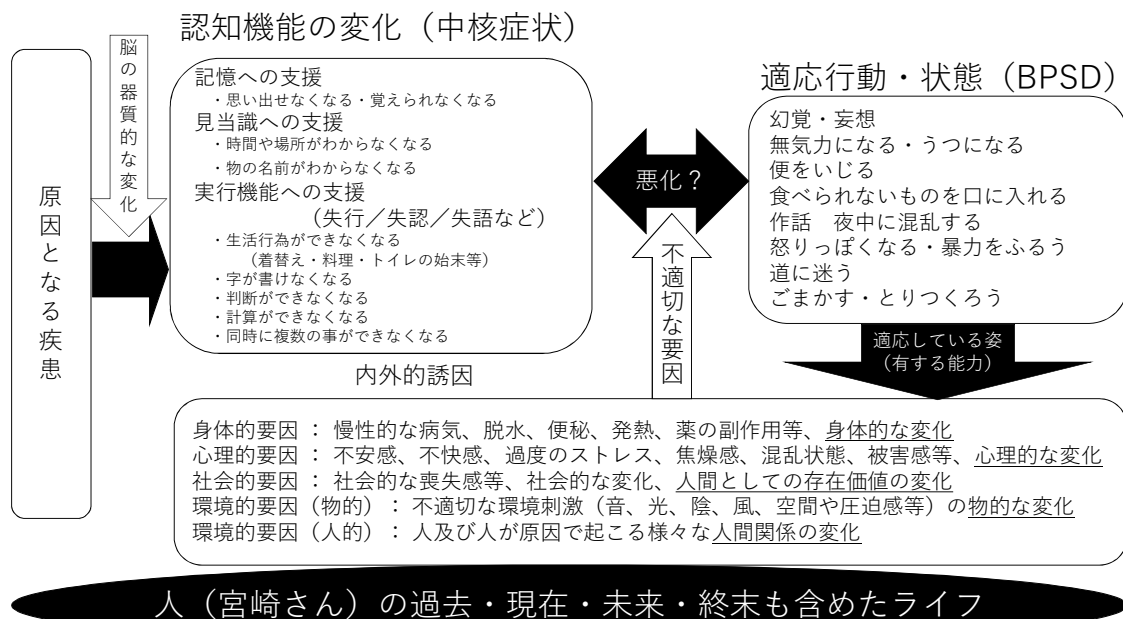
法的な根拠と具体的な方策

- 課題分析標準項目（23項目）
「介護サービス計画書の様式及び課題分析標準項目の提示について」
(平成11年11月12日 老企第29号 厚生省老人保健福祉局企画課長通知)の別紙4の別添
- 各種アセスメントツール
センター方式
MDS方式
三団体方式
包括的自立支援プログラム
その他各種団体が作成したものなど多種多様な方式
- アセスメントをサポートするツール
ひもときシート
PEAP（認知症高齢者への環境支援指針PEAP日本版）
パーソンセンタードケア及び認知症ケアマッピング（DCM） etc

課題分析標準項目（23項目） 川崎市ケアマネ会 参考

「介護サービス計画書の様式及び課題分析標準項目の提示について」
(平成11年11月12日 老企第29号 厚生省老人保健福祉局企画課長通知)

『人』と『認知症』の繋がり図（全体像）



5つのアセスメントカテゴリー

アセスメント① 『ライフヒストリーのアセスメント』 ～過去の生活背景・歴史を知る～

旧姓・出生地（出身地）・方言・子供の頃・愛称・学歴・得意な科目・親の仕事・兄弟姉妹・仕事・結婚・本人の子供・病気・排泄習慣・いつもいた場所（家・その他）・ペット・本人の性格・髪型・食べ物の好き嫌い・食事習慣・好きな色・好きな物（小物など）・大切な家具・服装・整容・入浴習慣・得意なこと・本人の自慢話・本人の苦労話・家族の自慢と苦労・調理（料理）・畑仕事・その他生活習慣・資格・過去の出来事（10代・20代・30代・40代・50代・60代・70代・80代・それ以上など）・その他特筆すべきことなど

アセスメント②
『認知機能のアセスメント』
～生活の営みの中で認知機能のアセスメントを充実させる～

記憶の機能

- ・ 思い出す、覚える機能

見当識の機能

- ・ 時間や場所の見当をつける機能
- ・ 物の名前を見当をつける機能

実行機能（行為／認識／言語など）

- ・ 生活するための行為
（着替え・買い物・掃除・料理・トイレの始末等）
- ・ 言葉で伝えること
- ・ 字を書くこと
- ・ 判断をすること
- ・ 計算をすること
- ・ 同時に複数の事を行うこと 等々

アセスメント③
『身の回りで起こる変化や出来事や環境へのアセスメント』
～日常の身の回りの変化に関心を寄せる～

◆直接的な身体的な変化や出来事（身体的要因のアセスメント）

老化、慢性的な病気、脱水、便秘、発熱、薬の副作用等

◆心理的な変化や出来事（心理的要因のアセスメント）

不安感、不快感、過度のストレス、焦燥感、混乱状態、被害感等

◆人間としての存在価値の変化や出来事（社会的要因のアセスメント）

社会的な喪失感

世間の中での自分の存在の変化

社会との関係の変化

◆物質的な変化や出来事（物的環境的要因のアセスメント）

不適切な物的な環境刺激（音、光、陰、風、空間の広がりや圧迫感）に配慮する
生活環境の変化

◆人間関係の変化や出来事（人的環境的要因のアセスメント）

人及び人が原因で起こる様々な人間関係の変化

アセスメント③
『起ってしまったことへのアセスメント』
～適応行動・状態の原因を探る（BPSD）～

幻覚・妄想
無気力になる・うつになる
便を拭う
食べられないものを口に入れる
作話・ごまかす・とりつくろう
道に迷う・ウロウロ歩き回る
夜中に混乱する
怒りっぽくなる・暴力をふるう

アセスメント⑤
『人となりのアセスメント』
『人となり』を見極める（20項目）

- 周囲の人への気配りがある
- 聞こうとする態度がある
- 身だしなみに気をつかう
- 自分の居場所をみつけることがうまい
- 人にもものが頼める
- 自分の意志を示せる
- 人をなごませる雰囲気がある
- 周囲の人と遊びができる
- 外出を楽しめる
- 人の使いわけがうまい
- 思い出話がうまい
- 人をほめるのがうまい
- 礼節・道徳への関心がある
- 手伝おうとする
- 表情が豊かである
- 生きいきした目をしている
- 待ってられる
- 人をひきつける雰囲気がある
- 好奇心がある
- 楽しみにしていることがある

ライブ中島紀恵子と教え子たち 「老年看護の縦横な語り」
中島紀恵子、北川公子 クオリティケア より

『人となり』とは

- 人柄、その人に備わっている性質とは品位とか、その人の持つ内面の全てのことをいいます。
- そんな捉え方が最も大切であると、実践を通して、強く確信を持つようになりました。

生活の営みの中にある 認知機能への支援を充実 させるためのアセスメント

～認知機能（生活するための機能）をアセスメント～



その有する能力に応じIADL（手段的日常生活動作）

手段的日常生活活動（IADL）尺度

A 電話を使用する能力

1. 自分から電話をかける（電話帳を調べたり、ダイヤル番号を回すなど）
2. 2～3 のよく知っている番号をかける
3. 電話に出るが自分からかけることはない
4. 全く電話を使用しない

B 買い物

1. 全ての買い物は自分で行う
2. 小額の買い物は自分で行える
3. 買い物に行くときはいつも付き添いが必要
4. 全く買い物はできない

C 食事の準備

1. 適切な食事を自分で計画し準備し給仕する
2. 材料が供与されれば適切な食事を準備する
3. 準備された食事を温めて給仕する、あるいは食事を準備するが適切な食事内容を維持しない
4. 食事の準備と給仕をしてもらう必要がある

D 家事

1. 家事を一人でこなす、あるいは時に手助けを要する（例：重労働など）
2. 皿洗いやベッドの支度などの日常的仕事はできる
3. 簡単な日常的仕事はできるが、妥当な清潔さの基準を保てない
4. 全ての家事に手助けを必要とする
5. 全ての家事にかかわらない

E 洗濯

1. 自分の洗濯は完全に行う
2. ソックス、靴下のゆすぎなど簡単な洗濯をする
3. 全て他人にしてもらわなければならない

F 移送の形式

1. 自分で公的機関を利用して旅行したり自家用車を運転する
2. タクシーを利用して旅行するが、その他の公的輸送機関は利用しない
3. 付き添いがいたり皆と一緒に公的輸送機関で旅行する
4. 付き添いか皆と一緒に、タクシーか自家用車に限り旅行する
5. まったく旅行しない

G 自分の服薬管理

1. 正しいときに正しい量の薬を飲むことに責任が持てる
2. あらかじめ薬が分けて準備されていれば飲むことができる
3. 自分の薬を管理できない

H 財産取り扱い能力

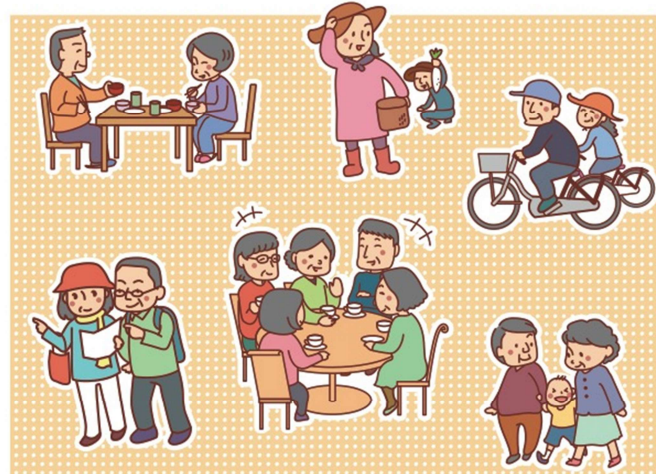
1. 経済的問題を自分で管理して（予算、小切手書き、掛金支払い、銀行へ行く）一連の収入を得て、維持する
2. 日々の小銭は管理するが、預金や大金などでは手助けを必要とする
3. 金銭の取り扱いができない

本人にとっての よりよい暮らしガイド

一足先に認知症になった私たちからあなたへ

本人 にとっての よりよい暮らし ガイド

一足先に認知症になった私たちからあなたへ



セルフアセスメント

認知症と人へのガイドライン（テキストP48）

■基本姿勢 応じ方心得 “3つの「ない」”

1. 驚かせない
2. 急がせない
3. 自尊心を傷つけない

■具体的な応じ方の7つのポイント

1. まずは見守る
2. 余裕を持って対応する
3. 声をかけるときは一人で
4. 後ろから声をかけない
5. 相手に目線を合わせて優しい口調で
6. おだやかに、はっきりした話し方で
7. 相手の言葉に耳を傾けてゆっくり対応する

記録ツールの紹介

次回の予告 『アセスメント②』 ～ひもときシートについて～

特別講師 大久保 幸積 氏（社会福祉法人 幸清会 理事長）

8月15日（水）
19：00～20：00
小規模多機能地域交流室

皆さん、お疲れ様でした。
ありがとうございました。